

会 議 録

会議名称	令和８年度第２回地域生活支援専門部会
日 時	令和８年（２０２６年）７月３０日（木）９：３０～１１：４０
会 場	越谷市役所第三庁舎５階 会議室１０
出席者	【出席委員】 齊間委員、田井委員、中山委員、石塚委員、柳沼委員、村上委員、石黒委員、上薄委員 【事務局】 （障害福祉課）近藤調整幹、須賀副課長、佐藤副課長、藤本主幹、対馬主幹、益本主事、石井主事 （こども福祉課）梅澤主幹
配付資料等	【配布資料】 ・次 第 ・事業実施確認表（各地区分） ・意見まとめ ・地域生活支援専門部会 部会員名簿 ・事務局職員等一覧
会議次第	１ 開会 ２ 議事 （１）基幹相談支援センター事業実施状況の結果報告について （２）その他 ３ 閉会
会議内容	１ 開会 ２ 議事 （１）基幹相談支援センター事業実施状況の結果報告について １．提出資料について地区ごとに結果報告を行う。主な意見は以下のとおり。 ①市の総評の報告を行う。 ②専門部会の総評の報告を行う。 ③各部会員より意見をもらう。 【意見・質問等】 委 員：差別相談件数が０件であったことについて、少なからず地域における差別はあると思われるため、今後の課題として啓発活動等も含めた検討を行っていただきたい。 委 員：行政政策の動向をよく確認してほしい。市の障がい者計画や障がい福祉計画、国の指針等を確認し、市や国が目指す方向性を把握することにより、基幹として取組むべき事項も見えてくるものと思われるため、今後取組みを進めるうえで心掛けていただきたい。 委 員：相談件数には表れないような困難ケースが多い地域であると感じる。

	正論だけではなかなか解決が難しいような事例も多くあると思われるがとても大変だと思うが、引き続きの支援をお願いしたい。 委員：地域性もあり、課題が複雑化していると感じる。その中で様々な資源を活用しながら対応をいただいていると思われる。今後は他の基幹相談支援センターや事業者と連携しながら協力して対応していけたら良いと考えている。 委員：他のスタッフと情報共有しながら対応することで、様々な意見ができるようにしている。また、顔が見える関係性が大事であると考えており、訪問するなど対面での対応を意識している。 委員：インフォーマルな視点での支援が行われているとの評価がありとても印象に残っている。相談者のニーズに応えられない場合など、情報不足の部分は、自分たちで情報を調べながら相談者と一緒に解決策を考えるなど対応いただいているのだと感じた。とても大変なことだとは思いますが、引き続きの支援をお願いしたい。 委員：触法ケースや医療連携が必要なケースなど、支援の難しいケースにも積極的に対応していただいている印象がある。今後も職員のレベルアップを図り支援の幅を広げながら、本人や家族等に寄り添った支援を粘り強く行っていただきたい。 委員：評価する側される側と分けて考えるのではなく、より良い支援を行うために基幹、部会員、行政とで協力しながら今度の取組みを行っていけると良いと思う。 委員：新規件数を抱えるなかで、相談者の対応には関係機関等との連携はとても重要になると思われるため、引き続きお願いしたい。 委員：4地区とも8050問題の記載があり関心を持った。介護保険制度において地域包括支援センターが先行して動いている中、50の対応が課題とされており、今後基幹相談支援センターに対応をお願いする流れが想定される。介護保険制度の特性上、80は高齢分野、50は基幹が対応と線引きされる可能性があるが、実態は重層的な支援が求められるため、高齢分野も巻き込んで支援を行っていく必要がある。8050問題に限らず、基幹相談支援センターとして様々な相談等が持ち込まれることがあると思うが、すべて受けてしまっているのは基幹自身が追い込まれてしまうため、周りを巻き込んで活動する力を身につけていくことが大切になると思う。 委員：本人だけでなく、家族単位で対応方法等を検討しており、必要に応じて関係機関と連携しながら対応している部分が強みであると感じた。 委員：他機関と連携する力が非常に高いと思う。また、相談者等に対する丁寧な対応が印象に残った。今後も地域で暮らす方々が安心して生活できるように支援を積み重ねていただきたい。 委員：ファーストコンタクトの役割を意識した支援が行われていると感じる。その中で、評価にもあがっている傾聴の部分については、電話対応などを行う支援員の大変さは計り知れないものがあるのだと思う。また、課題として挙げられている重度の知的障がい者や強度行動障がい者の受入れ施設に関しては、地域資源の一員として基幹と協力しながら対応をしていきたいと考えている。 委員：基幹相談支援センターの再編前から長く委託を受けていただいております。精神障がいのある方の相談先として地域から広く認識されている部分があると思う。これは相談者にとってはもちろんのこと、他の3地区にとっても強みであると考えている。現在は委託の仕様上、
--	--

	障がい種別に関係なくという点もあるため難しい点ではあると思うが、各地区の強みを活かして足りない部分を補い合っていくことも一つの方法なのではないかと考えている。 委員：対応力が求められるケースが非常に多いのだと感じている。時間外への対応も実施しているのだと報告書の中から伝わってきた。 委員：長く委託相談を行っている地区ということで、他の３地区と協力をしつつも引っ張っていただけるとありがたい。 委員：相談件数に見えない支援の難しさの部分に真摯に向き合っていただいていると感じている。強みの部分については、他の３地区にも広げていくことで地域の相談支援体制の底上げに繋げていただきたい。 委員：相談件数が非常に多い中、民生委員との連携は地域の声やニーズを把握するためにとっても良い対応であると感じた。８０５０問題など、地域課題には早い段階から対応することが重要であり、そのような地域ニーズ等を詳しく知っている民生委員との連携は引き続き実施していただきたい。 委員：課題分析がしっかり行われており、良い意味で地域に巻き込まれている印象。一方で、巻き込んでいく力や把握した課題を発信する力が今後の課題になっていくと感じている。今年度の研修で市内の主任相談支援専門員が５名となったが、その主任相談支援専門員を巻き込みながら、今後の取組みを行っていただきたい。 委員：厳しい自己評価となっており、業務に対して誠実に対応していることであると感じるため、今後も継続して業務を行っていただきたい。また、地域との連携調整について、「よりそい」や「就労サポート」など生活困窮者への対応が良く行われていると感じた。 委員：相談件数が非常に多く、様々な対応をいただいているなかで、基幹相談支援センター自体が社会資源化してしまっているように感じる。積極的に対応していただいていることはとても良い点であると思うが、負担感なども含め、社会資源である地域の事業者と積極的に連携を取りながら業務が進められると良いのかなと思う。 委員：多種多様な相談に柔軟に対応されている。その中でネットワークを構築する力が非常に強みであると感じるため、今後も構築したネットワークを活かした支援をお願いしたい。 (２) その他 ○次年度に向けた改善点等について意見をいただく。 委員：最初に基幹相談支援センターの方が入ってきた際の雰囲気や固い感じがあったため、座席位置などの工夫が必要かなと思う。 委員：共通の意見などもあるため、４か所同時に行う方法の検討や相談件数の集計方法の共通化が必要であると思う。 ３ 閉会
--	--